

学科名	経営ビジネス学科						
科目名	商業科教育法Ⅱ						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	教職必修						
担当者	羽野 繁行						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・商業教育の歴史について述べることができる。 ・戦後の商業教育における教育課程基準の変遷について説明できる。 ・指導と評価の一体化の重要性を認識し、評価基準の設定の手順を身に付けている。 ・学習指導案を作成し実践的指導力の基礎を培っている。 ・商業教育における人間性の大切さを理解し表現できる。 						
日程と内容	<p>9/26 第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法</p> <p>10/3 第2回：商業教育の生成（近世、明治）(1)</p> <p>10/10 第3回：商業教育の生成（近世、明治）(2)</p> <p>10/12 第4回：商業教育の拡充・発展（大正、昭和（戦前））(1)</p> <p>10/17 第5回：商業教育の拡充・発展（大正、昭和（戦前））(2)</p> <p>10/24 第6回：商業教育の試練（戦中、戦後）</p> <p>10/31 第7回：戦後の商業における教育課程基準の変遷(1)</p> <p>11/7 第8回：戦後の商業における教育課程基準の変遷(2)</p> <p>11/14 第9回：戦後の商業における教育課程基準の変遷(3)</p> <p>11/21 第10回：指導計画</p> <p>11/28 第11回：商業教育と教師の資質・能力</p> <p>12/5 第12回：学習指導と評価</p> <p>12/12 第13回：教育課程の編成</p> <p>12/19 第14回：商業教育の現状と活性化のための課題 一 講義・協議一</p> <p>1/9 第15回：まとめ</p> <p>1/16 第16回：定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	15%	プレゼンテーション				
	課題		授業への参加度	15%			
	演習		計	100%			
授業到達目標の達成度	シラバスで示しておいた講義内容を計画に沿って説明した。商業教育の歴史、戦後の商業における教育課程基準の変遷即ち学習指導要領改訂の内容、さらには商業教員に求められる資質などについて十分に説明した。また、商業教育の現状と課題については、学生とともに考えるように努めた。達成度には個人差がかなり見られたので、評価が良くなかった受講者は再度講義資料を復習してほしい。						
反省点	第14回の「商業教育の現状と課題」では、学生に考えさせ意見交換することを試みたのではあるが、学生からの発言が少なく活発な意見交換にはならなかった。それまで、基本的に講義だけという単調な形式だったので、もう少し学生と意見交換する場面を考えて作れば良かったのではないかと考えている。						
来年度の計画	来年度については、私自身は予定していない。教職を目指すからには、教師に対して社会がどのようなことを求めているか、少なくともこのことだけは、真剣に考え受講してほしいと考える。						
授業評価アンケートに対するコメント	私の授業への学生の評価は科目全体の平均を下回っていた。一人一人の書いたものを見ると、集中して講義に耳を傾け、一緒に考えながら聴いてくれた者は、非常に良い評価をしていた。私は、教師及び管理職として長年、高校に努めた立場から、教師を目指す受講者には厳しく接してきたが、理解してくれなかった受講者もいたようで残念である。今後もそのスタンスは持ち続けなければならないと思っている。それが教職科目を指導する者の責務であろう。後期においては、毎回授業の要点と意見・反省を書く時間を10分程度設けたが、効果があったと思う。毎回授業終了後、学生が書いたものを読むと、学生が少しずつその日の講義の内容について考えてくれてるのがわかり、次の講義の準備にも役立った。						
履修登録者数	21名	定期試験 受験者数	18名	合格者数	11名	合格率	61%